



VIDEOJET decoder 3000

VJD-3000



BOSCH

ja 設置マニュアル

目次

1	安全にご使用いただくために	5
1.1	感電のおそれ	5
1.2	設置および操作	5
1.3	メンテナンスおよび修理	5
2	お知らせ	7
2.1	このマニュアルについて	7
2.2	本マニュアルの表記上の規則	7
2.3	使用目的	7
2.4	EU 指令	7
2.5	銘板	7
3	システムの概要	8
3.1	付属部品	8
3.2	システム要件	8
3.3	機能の概要	8
3.4	接続、制御、および表示	10
3.4.1	正面図	10
3.4.2	背面図	11
4	設置	12
4.1	準備	12
4.2	取り付け	12
4.3	スイッチキャビネットへの設置	13
5	接続	15
5.1	モニターの接続	15
5.2	音声の接続	16
5.3	ネットワーク接続	17
5.4	アラーム入力とリレー出力の接続	17
5.5	シリアル接続	18
5.6	電源の接続	19
6	設定	21
6.1	セットアップ	21
6.2	Bosch Video Client を使用したセットアップ	21
7	トラブルシューティング	23
7.1	お問い合わせ	23
7.2	一般的な動作不良	23
7.3	LED	24
7.4	CPU 負荷	25
7.5	ネットワーク接続	25
7.6	端子台	25
7.7	著作権	26
8	メンテナンス	27
8.1	更新	27
8.2	初期設定にリセット	27
8.3	修理	27
9	使用停止	28
9.1	譲渡	28
9.2	廃棄	28

10	技術データ	29
10.1	電氣的仕様	29
10.2	機械的仕様	29
10.3	環境条件	29
10.4	規格	30
		31

1 安全にご使用いただくために

1.1 感電のおそれ

- 本機を指定外の電源に接続しないでください。
- 付属の電源装置または UL 規格認定取得済みで、LPS または NEC Class 2 準拠の出力を備えた電源装置のみご使用ください。
- 本機は、アース接続された主電力コンセントに接続してください。
- 本機の筐体を絶対に開けないでください。
- 電源装置を絶対に開けないでください。
- 障害が発生した場合は、電源装置を電源およびその他すべての機器から切り離してください。
- 電源装置および本機は、湿気の多い場所、水や雨のかかる場所には設置しないでください。
- スイッチキャビネットに設置する場合、本機と電源装置が適切なアース環境に接続されていることを確認してください。
- 本機の動作の安全性が確認できない場合は、運用を中断し、安全が確認できるまで使用しないでください。このような場合は、本機の点検を Bosch Security Systems に依頼してください。

以下の状態では、安全を確保できません。

- 本機または電源ケーブルに損傷がある
- 本機が正しく動作しない
- 本機が雨にさらされている、または湿気が多いところに設置されている
- 本機に異物が侵入した
- 悪条件のもとで長期間保管された
- 輸送中に強い衝撃を受けた

1.2 設置および操作

- 本機の設置作業を行う場合は、電気設備技術基準に従ってください。
- 本機の設置には、ネットワークに関する技術的な知識が必要です。
- 本機の設置または操作の前に、本機に接続されているモニターなどの周辺機器のマニュアルを理解しておいてください。マニュアルには、安全に関する重要な注意事項や用途に関する情報が記載されています。
- 本機の設置および操作は、本マニュアルに記載している手順に従って行ってください。それ以外の手順で行うと、怪我や、物的損害または機器の損傷につながる場合があります。

設置条件は以下の通りです。

- ヒーターなどの熱を発する機器の近くに本機または電源装置を設置しないでください。直射日光の当たる場所は避けてください。
- ケーブルの配線用に十分なスペースを空けてください。
- 本機と電源装置の両方に十分な通気を行ってください。スイッチキャビネットに複数のユニットを設置する場合は特に、総熱量を考慮してください。
- 接続には、同梱のケーブル、または電磁波の影響を受けないケーブルを使用してください。
- ケーブルの損傷や、ケーブルが引っ張られることによるトラブルを防ぐために、事前にケーブルの配線位置を決めてから配線してください。
- スイッチキャビネットを設置する場合、ねじに張力がかからず、外部から圧力をできるだけ受けないようにしてください。本機と電源装置を適切にアース接続します。
- 仕様の許容範囲を超える衝突、衝撃および激しい振動を避けてください。本機に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

1.3 メンテナンスおよび修理

- 本機のハウジングは絶対に開けないでください。本機の部品をお客様自身で交換しないでください。
- 電源装置を絶対に開けないでください。電源装置の部品をお客様自身で交換しないでください。

- 本機のメンテナンスおよび修理は、有資格サービススタッフ（電気技術者またはネットワーク技術者）がすべて行います。よくわからない場合は、販売店の技術サービスセンターにお問い合わせください。

2 お知らせ

2.1 このマニュアルについて

本マニュアルは、VIDEOJET decoder 3000 装置の設置、操作を行うユーザーを対象に説明しています。国際規定および国内の電気設備技術基準を厳守してください。基礎的なネットワークの知識や使用するネットワーク機器についての知識が必要です。本マニュアルでは、本機の設置について説明します。

2.2 本マニュアルの表記上の規則

本マニュアルでは、注意を促す必要がある場合、次の記号と表記を使用しています。



注意!

この記号は、記載された安全に関する指示に従わないと、人体への危険、本機またはその他の機器への損傷を引き起こす恐れがあることを示しています。

また、重大な物的損害が生じる可能性のあることを示しています。



注意!

この記号は、本機をより簡単に使いやすくするためのヒントや情報を示しています。

2.3 使用目的

VIDEOJET decoder 3000 は映像信号をネットワーク (Ethernet、LAN、インターネット) 経由で受信およびデコードします。本機は、防犯カメラシステムでの使用を目的とした製品です。外部センサーからの入力をトリガーにして、さまざまな機能を自動的に起動することができます。これら以外の用途には使用しないでください。

このマニュアルに説明されていない本機の使い方や、ご不明な点がございましたら、販売店または下記までお問い合わせください。

Bosch Sicherheitssysteme GmbH

Robert-Bosch-Ring 5

85630 Grasbrunn

ドイツ

www.boschsecurity.com

2.4 EU 指令

VIDEOJET decoder 3000 は EU 指令 89/336 (電磁適合性) および 73/23 (93/68 で改訂、低電圧指令) の要件に準拠しています。

2.5 銘板

製品を正しく識別するための型名およびシリアル番号が印刷された銘板がハウジングの下部に貼られています。本機を設置する前に、これらをメモしておくことをお勧めします。お問い合わせや交換部品をご注文の際に、型名・シリアル番号が必要になります。

3 システムの概要

3.1 付属部品

- VIDEOJET decoder 3000 ビデオデコーダー×1
- 端子台×2 (6 ピン、8 ピン)
- 自己固定式弾性バンパー×4
- 壁掛け用パネル×1
- ねじ×2
- 壁プラグ×2
- 3 種類のプラグつき電源装置 (EU、US、UK 等) ×1
- 設置マニュアル×1



注意!

同梱品がすべて揃っているか、破損しているものがないかを確認してください。同梱物に破損がある場合は、販売店または Bosch Security Systems にご連絡ください。

3.2 システム要件

一般要件

- Windows XP または Windows 7 OS のコンピューター
- ネットワーク (イントラネットまたはインターネット)
- 画面解像度 1024×768 ピクセル以上
- 色深度 16 または 32 ビット
- Oracle JVM のインストール



注意!

本機の IP アドレスから Cookie を保存できるように Web ブラウザーを設定する必要があります。Windows 7 では、[インターネット オプション] の [セキュリティ] タブで保護モードを [無効] にします。

Microsoft Internet Explorer の使い方については、Internet Explorer のオンラインヘルプを参照してください。

その他の構成および動作要件

その他の構成および動作要件に関する説明は、各ファームウェアに関する **Releaseletter** ドキュメントに記載されています。

最新バージョンファームウェア、必要な制御プログラム、Bosch Video Client 管理ソフトウェアの最新バージョンについては、インターネットで Bosch 製品カタログにアクセスしてください。

3.3 機能の概要

高解像度ビデオデコーダー

VIDEOJET decoder 3000 は、PAL、NTSC、または HD ソースから IP ネットワーク経由で受信した、H.264 でエンコードされた映像を最大毎秒 60 フレームで再生します。

カメラ、エンコーダー、または Bosch の統合映像管理システムからの映像を自動接続することができます。このデコーダーは、単一の HD 映像ストリームまたは最大 4 つの SD 映像ストリームを 4 分割モードで同時にデコードすることができます。

管理システムを使用して表示モードをリモートで制御できます。HDMI 経由で HD モニターに直接出力できるため、フラットパネルのモニターウォールのアプリケーションとして最適です。コンポジット映像 BNC 出力を使用してアナログモニターに接続することもできます。

VIDEOJET decoder 3000 は映像と同時に音声通信も 1 チャンネルの双方向で提供します。

超コンパクトサイズの VIDEOJET decoder 3000 は、スペースに制約がある用途にも適しています。

アクセスセキュリティ

VIDEOJET decoder 3000 は、ネットワーク、本体、およびデータチャンネルにアクセスするためのさまざまなアクセスセキュリティレベルを設定することができます。最大 2 つのレベルのパスワード保護に加えて、RADIUS サーバーを使用した 802.1x 認証にも対応しています。Web ブラウザーからのアクセスは、HTTPS で本体内に保存される SSL 証明書を使用して保護することができ、クライアントの暗号化機能に応じて、AES または 3DES 暗号化を使用してデータ全体を保護できます。または、暗号化サイトライセンスを適用すれば、128 ビットキーを使って各通信チャンネル (映像、音声、リアル I/O など) を個別に AES で暗号化することができます。

ハイパフォーマンス

高性能のデコーダーが IP 映像を受信し、アナログ CCTV モニターまたは大画面フラットパネルモニターで鮮明に表示することができます。

VIDEOJET decoder 3000 は、最大 4 つの SD H.264 映像をフル解像度 / フレームレートで処理し、4 分割で表示できます。1 画面表示の場合、最大 1080p30 または 720p60 の HD 映像ストリームを表示できます。

フレキシビリティ

Web ブラウザーの接続ページ、オプションの IP Matrix ライセンス、IntuiKey キーボードのサポート、映像クライアントおよび映像管理システムとの統合により、VIDEOJET decoder 3000 は、小規模のスタンドアロンシステムから大規模または分散された集中管理アプリケーションまでさまざまな用途に対応できます。

アップグレードが容易

新しいファームウェアがリリースされた際、本機をリモートでいつでもアップグレードできます。アップグレードにより、最新機能が利用可能になるため、設備投資を無駄にすることがありません。

概要

VIDEOJET decoder 3000 には、主に以下の機能があります。

- IP データネットワーク経由での映像、音声およびデータの受信
- 4 つの映像ストリームの同時デコーディングと 4 分割表示機能
- アナログモニターを接続するための BNC コンポジット映像出力 (PAL / NTSC) ×1
- デジタル映像をフラットパネルモニターなどに表示するための HDMI インターフェース ×1
- 国際規格の H.264 に準拠した映像のデコーディング
- 内蔵イーサネットポート (10/100 Base-T)
- RS-232 / RS-422 / RS-485 シリアルインターフェースを介した双方向の透過的データ転送
- すべての内部機能を TCP/IP 経由で設定、遠隔制御が可能 (HTTPS によるセキュリティ保護に対応)
- 不正な接続や設定変更を防ぐパスワード保護
- 4 外部センサー (ドア接点など) のためのアラーム入力
- 1 ランプやサイレンなどの外部ユニットを動作させるためのリレー出力
- イベントによる自動接続
- アップロード機能によりメンテナンスが容易
- 制御およびデータチャンネルのフレキシブルな暗号化機能
- 国際規格 802.1x に基づく認証
- ライン接続の音声双方向通信 (モノラル)
- 国際規格 G.711 および L16 に基づく音声エンコーディング

3.4 接続、制御、および表示

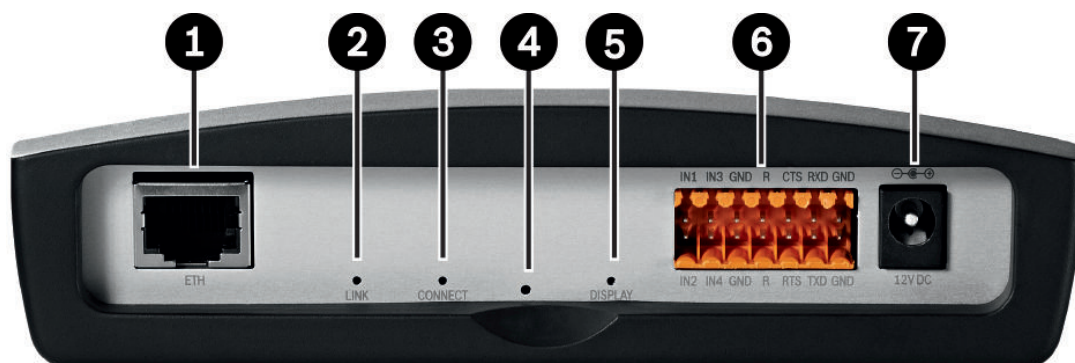
3.4.1 正面図



- 1 HDMI モニターソケット**
HDMI ケーブル経由でコンピューターモニターを接続
- 2 VIDEO OUT 映像出力**
映像モニターを接続する BNC コネクター
- 3 AUDIO IN 音声接続 (モノラル)**
2 つの音源に接続できる音声入力用 3.5mm ステレオコネクター
- 4 AUDIO OUT 音声接続 (モノラル)**
音声接続ライン出力用 3.5mm ステレオコネクター

3.4.2

背面図



- 1 **ETH** RJ45 コネクター
イーサネット LAN (ローカルネットワーク)、10/100 MBit Base-T を接続
- 2 **LINK** LED
ネットワークに接続時に点灯
- 3 **CONNECT** LED
電力が供給されているときおよびデータ送信中に点灯
- 4 初期化ボタン
設定を初期化します
- 5 **DISPLAY** LED
モニターポートの使用状況
- 6 端子台
アラーム入力、リレー出力、シリアルインターフェース
- 7 **12V DC** 電源コネクター
電源装置を接続

参照項目:

- LED, ページ 24
- 端子台, ページ 25

4 設置

4.1 準備

VIDEOJET decoder 3000 および電源装置はどちらも屋内またはハウジング内での利用を対象としています。環境条件に合った設置場所でお使いください。

本機は卓上または付属している設置器具を使用して壁に取り付けて使用できます。スイッチキャビネット内に設置する場合は、3 台までマウント可能なラック取付キットを購入できます。詳細については、インターネットで Bosch 製品カタログを参照してください。



注意!

付属の電源装置の周囲温度条件は 0 ~ +40°C (+32 ~ +104°F) です。相対湿度条件は 20% ~ 80% です。本機の周囲温度条件は 0 ~ +50°C (+32 ~ +122°F) です。相対湿度が 90% 以下の場所で使用してください。

本機および電源装置は、作動中は高温になりますので、適切な通気を確保し、熱に弱い物や機器から十分に離して設置してください。電源装置を接続しない状態でも高温になると装置あたり 31BTU/h に達することもあるため、ご注意ください。

設置条件は以下の通りです。

- ヒーターなどの熱を発する機器の近くに本機または電源装置を設置しないでください。直射日光の当たる場所は避けてください。
- ケーブルの配線用に十分なスペースを空けてください。
- 本機と電源装置の両方に十分な通気を行ってください。スイッチキャビネットに複数のユニットを設置する場合は特に、総熱量を考慮してください。
- 接続には、同梱のケーブル、または電磁波の影響を受けないケーブルを使用してください。
- ケーブルの損傷や、ケーブルが引っ張られることによるトラブルを防ぐために、事前にケーブルの配線位置を決めてから配線してください。
- スイッチキャビネットを設置する場合、ねじに張力がかからず、外部から圧力をできるだけ受けないようにしてください。本機と電源装置を適切にアース接続します。
- 仕様の許容範囲を超える衝突、衝撃および激しい振動を避けてください。本機に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

4.2 取り付け

本機は、壁掛け用パネルを使用し、縦置きまたは横置きで天井またはその他の荷重耐性のある場所に取り付けることができます。

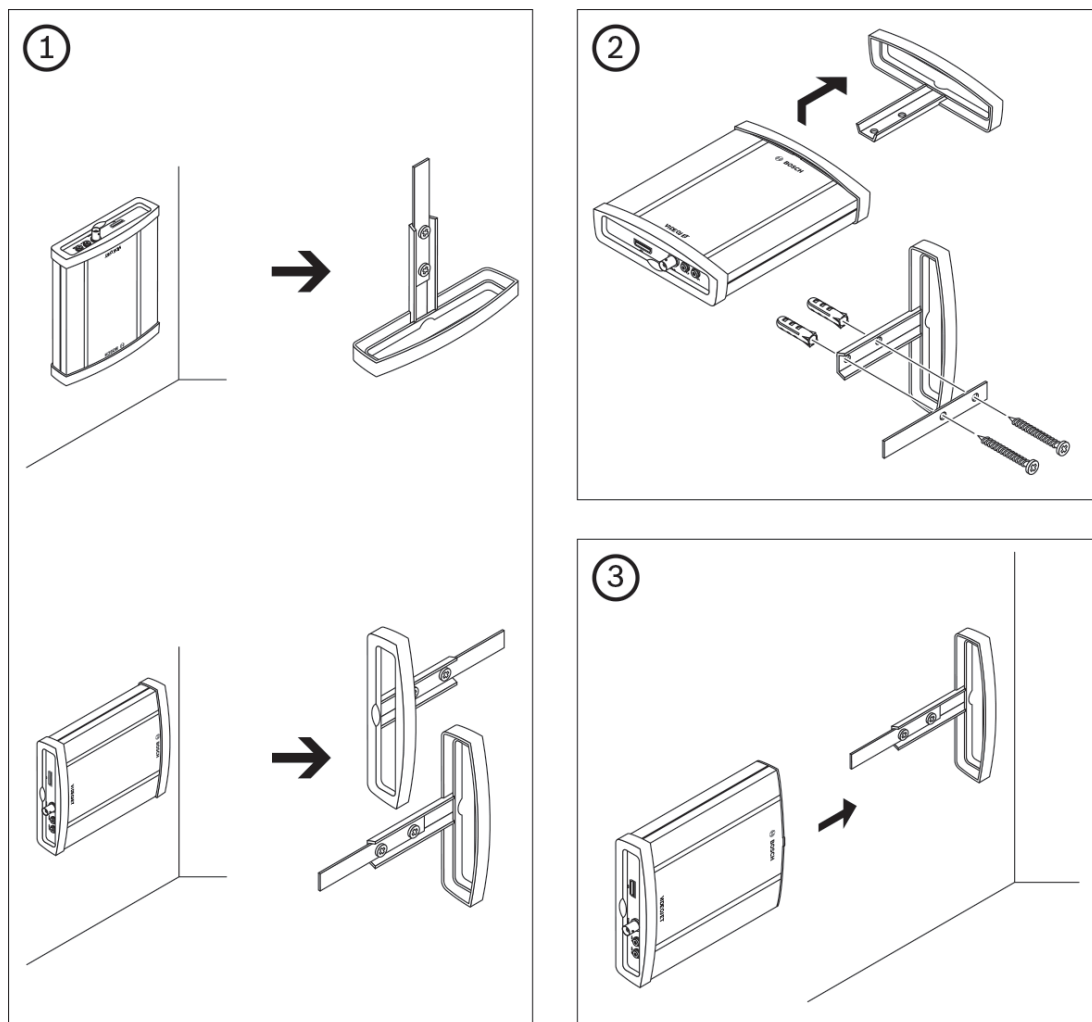


注意!

本機をしっかりと固定できる場所に取り付けてください。本機重量の 4 倍の荷重負担能力が必要です。

本機を縦置きで取り付ける場合は、下部のプラスチックフレームを使用し、本機を上部からフレームに取り付ける必要があります。横置きで取り付ける場合は、2 つのフレームのどちらかを使用できます。

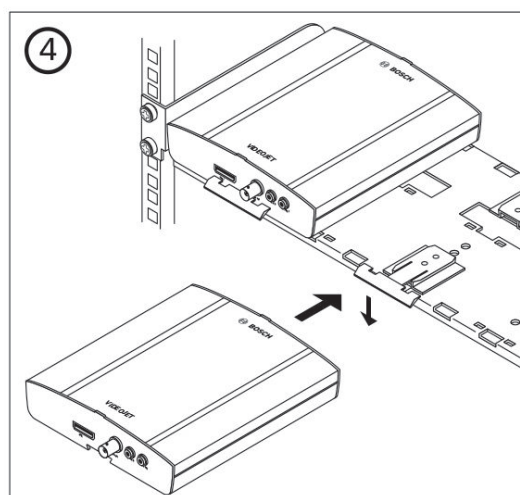
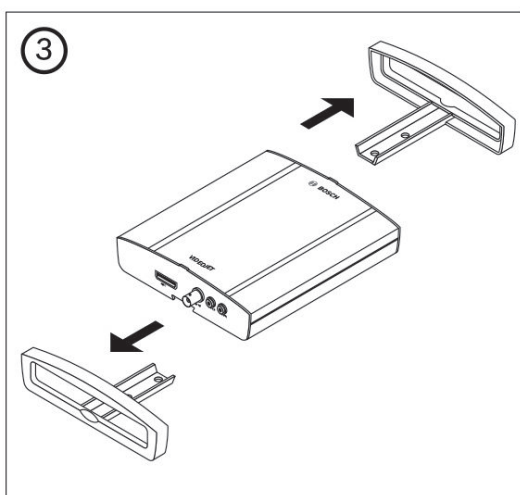
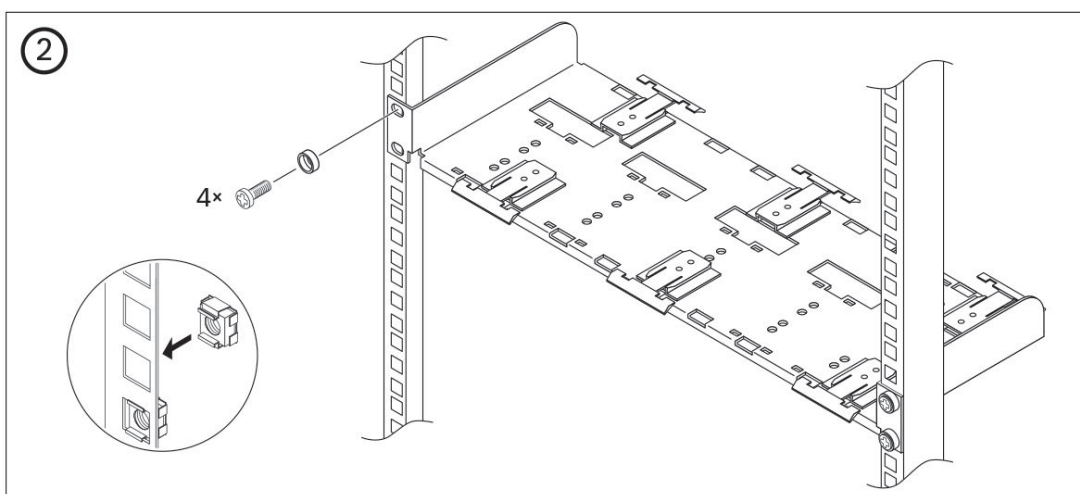
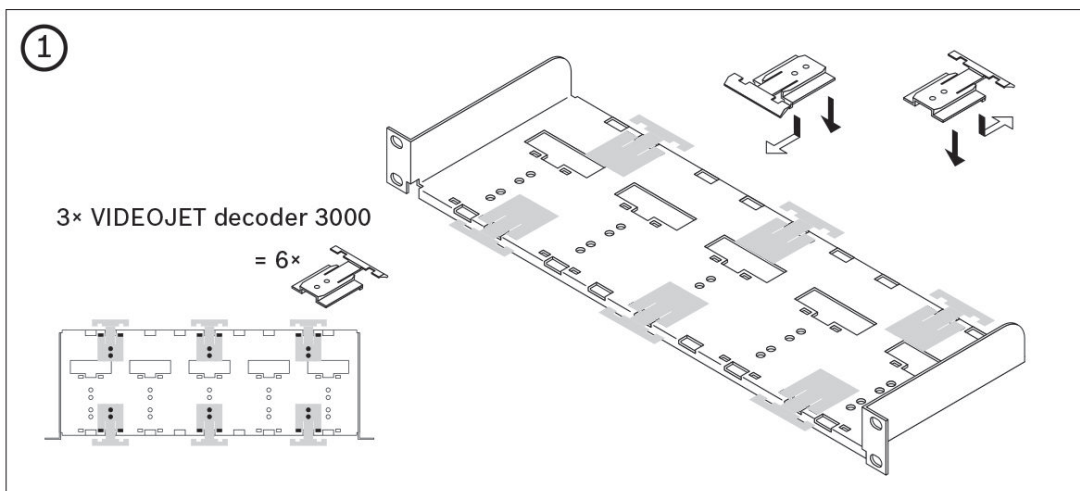
1. ハウジングの片側のプラスチックフレームを持ち上げ、本機から慎重に取り外します。
2. プラスチックフレームを壁掛け用パネルと一緒に必要な位置にネジ止めします。
3. プラスチックフレームが固定されていることを確認してください。
4. 本機を壁掛け用パネルに取り付けます。パネルはハウジングと 2 つ目のプラスチックフレームの間に配置します。
5. しっかりとめ込まれた状態までプラスチックフレーム内に本機をスライドさせます。
6. 最後に、設置場所に本機がしっかりと取り付けられていることを確認します。



4.3

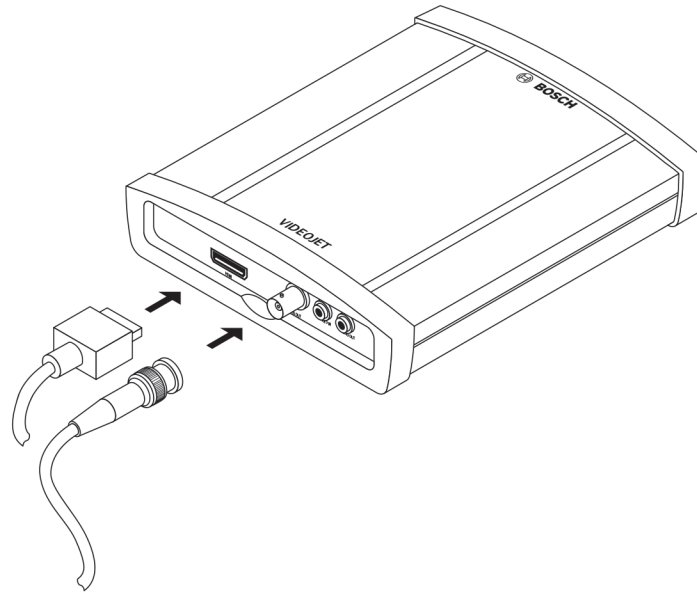
スイッチキャビネットへの設置

1. 必要な数（装置あたり2つ）の固定用プレートを設置します。
2. 設置場所に直接ラック取付フレームを挿入しやすいように、スイッチキャビネットを準備します。
3. スwitchキャビネットフレームのねじ穴または空間にケージのナットを配置します。
4. 空のラック取付フレームをスイッチキャビネットフレームまで持ち上げ、締め付けねじと座金を挿入します。
5. 各ねじを締め、もう一度すべてのねじが固定されていることを確認します。
6. 設置する各ユニットの両側からプラスチックフレームを取り外します。
7. しっかりはめ込まれた状態まで各ユニットを対応する固定プレート上でスライドさせます。



5 接続

5.1 モニターの接続



デコーダーには、適切なモニターを接続する必要があります。本機には 2 つのモニター出力があります。映像方式を **PAL** または **NTSC** に設定し、両方の出力を同時に使用できます。



注意!

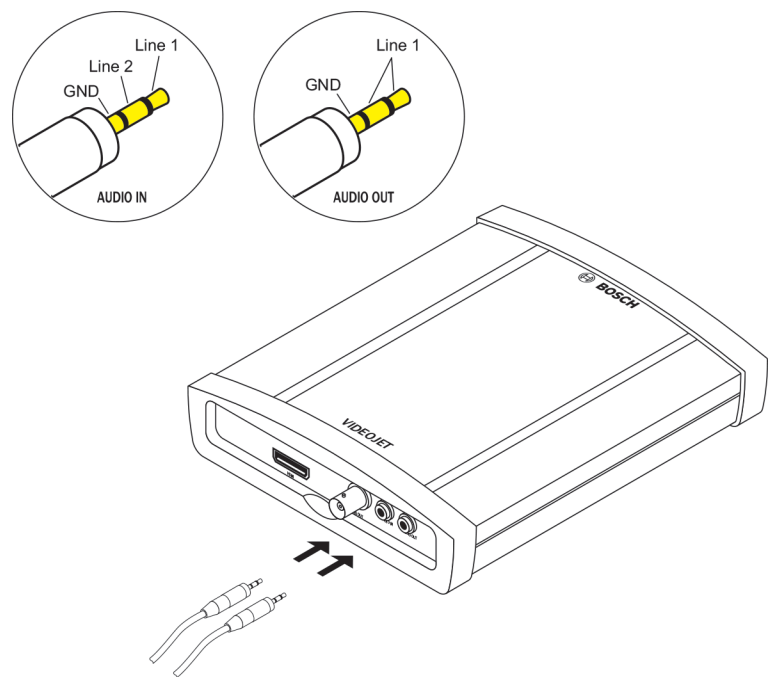
映像方式はデフォルトで **PAL** に設定されています。対応する設定を行わずに、PAL 以外のモニターに接続するとモニターが正常に機能しないことがあります。

使用するケーブルの長さが 30m を超えないようにしてください。

1. 映像ケーブル (75Ω、BNC プラグ) を使用して、アナログ映像モニター (PAL / NTSC) を BNC コネクタ **VIDEO OUT** に接続します。
2. HDMI ケーブルを使用して、HDMI 互換コンピューターモニターを **HDMI** ソケットに接続します。
注意 : HDMI 接続では音声はサポートされません。音声伝送が必要な場合は、音声ポートを使用してください。

HDMI-DVI アダプターを使用して、DVI モニターを **HDMI** ソケットに接続することもできます。

5.2 音声の接続



本機には、音声ライン信号用の 2 つの音声ポートがあります。
音声信号は双方向で伝送され、映像信号と同期されます。どのような条件下でも、以下の仕様を満たす必要があります。

音声入力×2：	インピーダンス 9kΩ (通常)、最大入力電圧 5.5V _{p-p}
ライン出力×1：	3.0V _{p-p} (通常) 10kΩ インピーダンスでの出力電圧

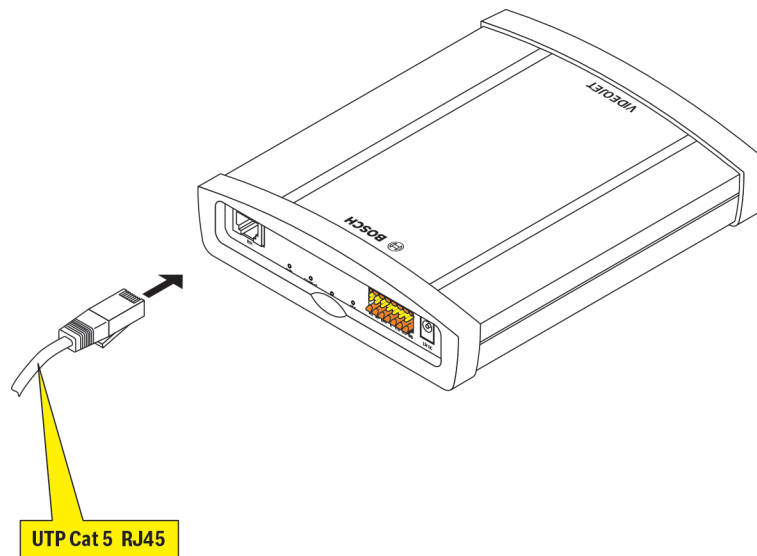
ステレオプラグは次のように接続してください。

接点	AUDIO IN	AUDIO OUT
先端	チャンネル 1	チャンネル 1
中間リング	チャンネル 2	—
スリーブ	アース	アース

- 1. 音源を 3.5mm ステレオプラグ付きの **AUDIO IN** コネクタに接続します。
- 2. 音声再生側機器を 3.5mm ステレオプラグ付き **AUDIO OUT** コネクタにラインインとして接続します。

音声機能は、デフォルトでは無効になっていますので注意してください。音声接続を使用するには、本機の設定時に該当する設定を有効にしてください。

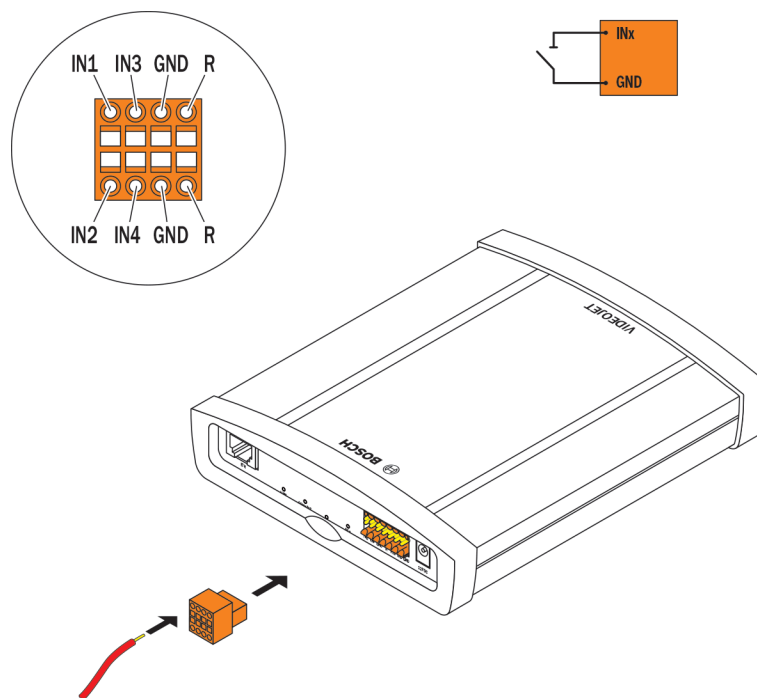
5.3 ネットワーク接続



RJ45 コネクター付きの標準 UTP CAT 5 ケーブルを使用して、を 10/100 Base-T ネットワークに接続します。

▶ 装置を **ETH** ソケット経由でネットワークに接続します。

5.4 アラーム入力とリレー出力の接続



アラーム入力

本機の端子台には 4 つのアラーム入力があります。アラーム入力は、ドア接点やセンサーなどの外部アラームデバイスと接続する場合に使用します。たとえば、アラームセンサーからの入力により、本機を遠隔地に自動的に接続させるような構成も可能です。

ゼロ電位のクローズ接点またはスイッチをアラーム入力ソースとすることができます。チャタリングのない接点をアラーム入力ソースとして使用することをお勧めします。

**注意!**

本機に貼ってあるラベルの指示に従ってください。

1. 配線を端子台の適切な端子 (**IN1 ~ IN4**) に接続し、しっかりと接続されていることを確認してください。
2. 各アラーム入力をアース接点 (**GND**) に接続してください。

リレー出力

本機には、ランプやサイレンなどのような外部ユニットを動作させるための 1 つのリレー出力があります。本機との接続が有効であれば、このリレー出力を手動で操作できます。これらの出力は、アラーム信号に反応して、自動的にサイレンやその他のアラームユニットを作動させるように設定することもできます。リレー出力は端子台にも存在します。

**注意!**

本機に貼ってあるラベルの指示に従ってください。

リレー接点には、30V_{p-p} (SELV)、200mA の最大負荷をかけられます。

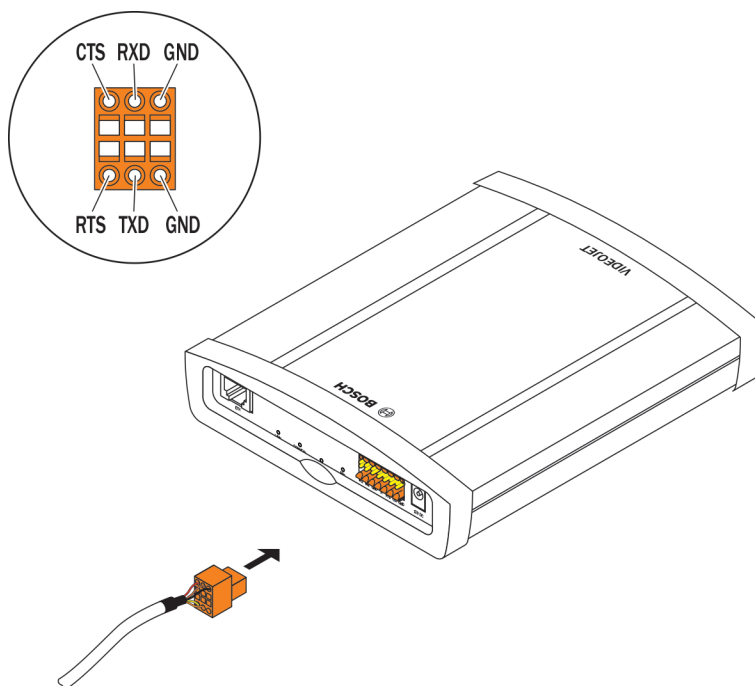
1. 配線を端子台の適切な端子 (**R**) に接続し、しっかりと接続されていることを確認してください。
2. ラベルの指示に従い、端子台を本機のソケットに接続してください。

参照項目:

- 端子台, ページ 25

5.5

シリアル接続



双方向データインターフェースは、デコーダーに接続された電動ズームレンズ付きドームカメラのコントロールパネルなどの機器を制御するのに使用します。この接続は、RS-232、RS-422 および RS-485 通信規格に対応しています。透過データ伝送をする場合、映像ストリームの接続も必要になります。シリアルインターフェースは端子台にあります。

制御可能な機器ラインナップは常時更新されています。関連機器の設置と制御に関する情報については、それぞれのメーカーに確認してください。本機が制御する周辺機器の設置や操作を行う際は、該当するマニュアルをご確認ください。マニュアルには、安全に関する重要な注意事項や用途に関する情報が記載されています。

**注意!**

本機に貼ってあるラベルの指示に従ってください。

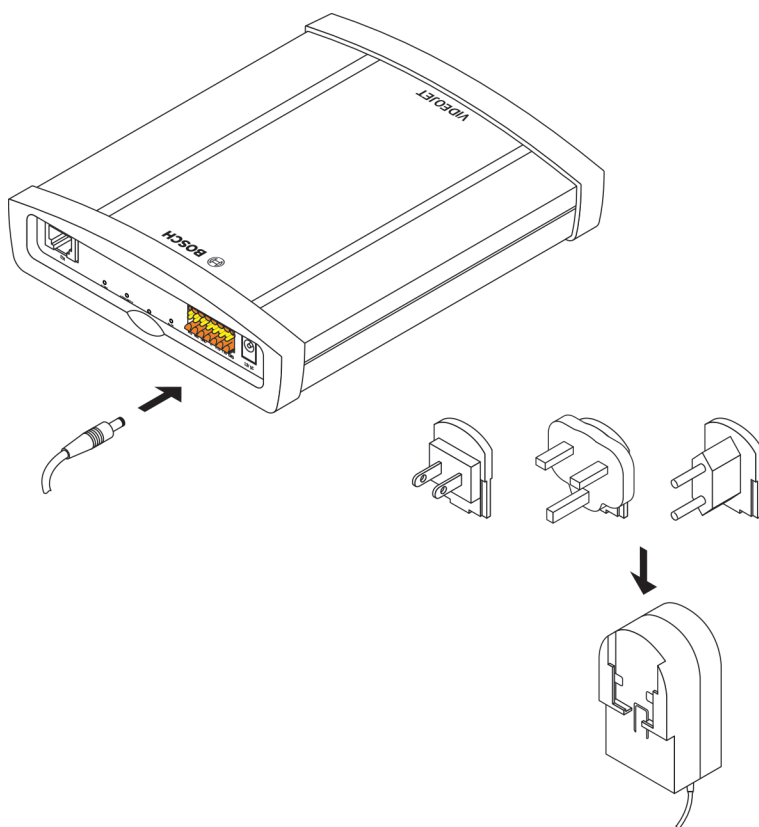
1. 本機にシリアル接続をする必要がある場合には、関連したケーブルを端子台に接続して、確実に接続されていることを確認してください。
2. ラベルの指示に従い、端子台を本機のソケットに接続してください。

参照項目:

– 端子台, ページ 25

5.6

電源の接続



VIDEOJET decoder 3000 には、3 つの主要なアダプター付きのプラグイン電源装置が付属しています。電源スイッチはありません。本機は主電源に接続されるとすぐに動作します。

**注意!**

お使いのコンセントに合う適切なアダプターを装着した本電源装置を使用するか、または UL 規格認定取得済みで、LPS または NEC Class 2 に準拠したコンセントを備えた電源装置のみご使用ください。

必要に応じて、適切な機器を使用して、電源がサージ電圧、スパイクまたは電圧降下などの影響を受けないようにしてください。

他の接続がすべて完了するまで、本機を電源装置に接続しないでください。

1. 電源装置を **12V DC** ソケットに接続します。
2. 電源装置に適切なアダプターを取り付けて、適切な電源コンセントが使用可能であることを確認してください。
3. 電源装置をアース端子付きの電源コンセントに差し込みます。 **CONNECT** LED が、スタートアップ処理を示す赤色から緑色に変わると、本機を使用できるようになります。

ネットワークが正しく接続されている場合、緑色の **LINK** LED が点灯します。緑色の **CONNECT** LED が点滅しているときは、データがネットワーク経由で伝送されていることを示しています。

参照項目:

- LED, ページ 24

6 設定

6.1 セットアップ

本機をネットワーク上で稼働させる前に、有効な IP アドレスとサブネットマスクを設定する必要があります。



注意!

本機のネットワークの設定ではデフォルトで DHCP が有効になっています。

本機を動作させるには、ネットワーク内にアクティブな DHCP サーバーを置き、DHCP サーバーによって割り当てられる IP アドレスを知っている必要があります。

デフォルトで「192.168.0.1」に設定されています。

このセットアップ手順は、Video Client 経由またはその他の管理システム経由で行われます。設定に関する情報は、すべて使用中の映像管理システムの関連するドキュメントに記載されています。

6.2 Bosch Video Client を使用したセットアップ

最新バージョンの Video Client 管理ソフトウェアについては、インターネットで Bosch 製品カタログにアクセスしてください。このプログラムを使うことによって、本機をネットワークに簡単に接続、セットアップできます。

プログラムのインストール

1. Video Client をインターネットで Bosch 製品カタログからダウンロードします。
2. .zip ファイルを解凍します。
3. インストーラーファイルをダブルクリックします。
4. 画面に表示される指示に従って、インストールを完了します。

本機の設定

インストール後 Video Client を起動します。



1. デスクトップの Bosch Video Client アイコンをダブルクリックしてプログラムを起動します。[スタート] - [すべてのプログラム] を選択してアプリケーションを起動することもできます ([スタート] - [すべてのプログラム] - [Bosch Video Client] - [Bosch Video Client])
2. プログラムを初めて起動すると、ウィザードが開き、ネットワーク上のデバイスを検出および設定できます。
3. ウィザードが自動的に起動しない場合は、 をクリックして、Configuration Manager アプリケーションを開きます。次に、ツールメニューの設定ウィザード... をクリックします。
4. 設定ウィザードウィンドウに表示される指示に従います。



追加パラメーター

Bosch Video Client の Configuration Manager アプリケーションを使用して、その他のパラメーターを確認、設定できます。その他のパラメーターの設定に関する詳細は、アプリケーションのマニュアルを参照してください。

音声機能は、デフォルトでは無効になっていますので注意してください。音声接続を使用するには、本機の設定時に該当する設定を有効にしてください。

7 トラブルシューティング

7.1 お問い合わせ

動作不良を解決できない場合は、販売店またはシステムインテグレーターにお問い合わせいただくか、直接 Bosch Security Systems のカスタマーサービスまでお問い合わせください。

次の表は、動作不良の原因を特定する際にご利用ください。

7.2 一般的な動作不良

動作不良	考えられる原因	推奨解決方法
モニターに画像が表示されない	モニターエラー	ローカルカメラまたはその他の画像ソースをモニターに接続し、モニターの機能を確認します。
	ケーブル接続の誤り	ケーブル、プラグ、接点および接続をすべて確認します。
	モニター障害	本機に他のモニターを接続するか、他のモニター接続を使用します。
	設定間違い	映像方式の設定がモニターと一致していることを確認します。
接続が確立されず、画像が転送されない	本体の設定間違い	設定パラメーターをすべて確認します。
	取付不良	ケーブル、プラグ、接点および接続をすべて確認します。
	IP アドレスの間違い	IP アドレスを確認します。
	LAN 内データ転送エラー	ping などにより、データ転送を確認します。
	最大接続数超え	接続が空くまで待って、送信ユニットに再接続します。
リモートステーションに音声転送されない。	ハードウェア故障	接続された音声ユニットがすべて正しく動作していることを確認します。
	ケーブル接続間違い	ケーブル、プラグ、接点および接続をすべて確認します。
	設定間違い	音声パラメーターを確認します。
	別の受信ユニットが音声接続をすでに使用	接続が空くまで待って、もう一度ユニットを呼び出します。
本機がアラームを発しない。	アラームソースが未選択	アラームソースの選択を確認します。
	アラーム応答の未指定	必要なアラーム応答を指定し、必要であれば、IP アドレスを変更します。

動作不良	考えられる原因	推奨解決方法
カメラまたはその他のユニットを制御できない。	シリアルインターフェースと接続されたユニットの間のケーブル接続間違い	ケーブル接続をすべて確認し、すべてのコネクタが正しく取り付けられていることを確認してください。
	インターフェースパラメーターが、接続されている他ユニットのインターフェースパラメーターと不一致	すべての関連ユニットの設定に互換性があることを確認します。
ファームウェアのアップロード後に本機が動作しない。	ファームウェア更新中の電源障害	カスタマーサービスに本機の点検を依頼し、必要であれば修理対応となります。
	誤ったファームウェアファイル	Web ブラウザーで本機の IP アドレスに続けて「/main.htm」と入力し、もう一度ファームウェアをアップロードします。
ActiveX コンポーネントの代わりに赤い x 印のプレーズホルダーが表示される。	コンピューターに JVM がインストールされていないか、有効になっていない	インターネットで Bosch 製品カタログから Oracle JVM をインストールします。
Web ブラウザーに空白のフィールドが表示される。	ネットワーク内のプロキシサーバーを参照	ローカルのコンピューターのプロキシ設定に、ローカルの IP アドレスを除外するルールを作成します。
送信ユニットがデコーダーに接続されている場合、最初の接続が残っている。	自動接続が設定	自動接続をオフにします。

7.3

LED

本体の背面パネルには LED があります。これらの LED は、動作ステータスを示し、動作不良の可能性がある場合はそれを示します。

LINK LED

点灯 (緑) : ネットワーク接続が確立されている。

CONNECT LED

消灯 : 本機の電源がオフ

点灯 (緑) : 本機の電源がオンで、起動が完了している。

点灯 (赤) : 起動中

点滅 (緑) : ネットワーク経由でデータパケットを転送中

点滅 (赤) : 本機でエラー発生 (ファームウェアのアップロード失敗など)

DISPLAY LED

点滅 (緑) : アナログ映像とデジタル映像の両方を接続できます

点灯 (緑) : デジタル映像のみを使用できます

7.4 CPU 負荷

Web ブラウザー経由で本機にアクセスすると、ウィンドウ右上の情報アイコン  の横に CPU 負荷がバー表示されます。



本機のトラブルシューティングや設定の微調整を行うときに役立つ追加情報を確認できます。表示される数値は、エンコーダーの負荷を機能別にパーセンテージで表示したものです。

▶ カーソルをグラフィック表示に合わせます。追加の数値がいくつか表示されます。

7.5 ネットワーク接続



ネットワーク接続に関する情報を表示できます。これを行うには、カーソルを  に合わせます。

リンク イーサネットリンク種別

UL アップリンク：送信データトラフィックの伝送速度

DL ダウンリンク：受信データトラフィックの伝送速度

7.6 端子台

端子台には、次のような複数の接点があります。

- シリアルデータ転送
- 4 アラーム入力
- 1 リレー出力

シリアルインターフェースのピン配置

シリアルインターフェースは、透過的データの転送、接続されたユニットの制御、ターミナルプログラムによるユニットの操作などに使用されます。

シリアルインターフェースは、RS-232、RS-422 および RS-485 通信規格に対応しています。使用されるモードは、現在の設定によって異なります。

シリアルインターフェースのピン配置は使用されるインターフェースモードによって変わります。

接点	RS-232 モード	RS-422 モード	RS-485 モード
CTS	—	RxD- (受信データマイナス)	—
TXD	TxD (送信データ)	TxD- (送信データマイナス)	Data-
RTS	—	TxD+ (送信データプラス)	Data+
RXD	RxD (受信データ)	RxD+ (受信データプラス)	—
GND	GND (アース)	—	—

I/O のピン配置

接点	機能
IN1	アラーム入力 1
IN2	アラーム入力 2

接点	機能
IN3	アラーム入力 3
IN4	アラーム入力 4
GND	アース
R	リレー出力

各アラーム入力をアース接点 (**GND**) に接続してください。

7.7

著作権

The terms HDMI and HDMI High-Definition Multimedia Interface, and the HDMI logo are trademarks or registered trademarks of HDMI Licensing LLC in the United States and other countries.

フォント

ファームウェアは、Adobe-Helvetica-Bold-R-Normal--24-240-75-75-P-138-ISO10646-1 フォントおよび Adobe-Helvetica-Bold-R-Normal--12-120-75-75-P-70-ISO10646-1 フォントを以下の著作権に基づいて使用しています。

Copyright 1984-1989, 1994 Adobe Systems Incorporated.

Copyright 1988, 1994 Digital Equipment Corporation.

Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notices appear in all copies and that both those copyright notices and this permission notice appear in supporting documentation, and that the names of Adobe Systems and Digital Equipment Corporation not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

ソフトウェア

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

8 メンテナンス

8.1 更新

ファームウェアの更新は Video Client ソフトウェア経由か、他の使用中の管理システム経由で行われます。関連するドキュメントを参照してください。

8.2 初期設定にリセット

初期化ボタンを使用して、ユニットに加えた設定をデフォルトに戻すことができます。すべての設定はすべてデフォルトに戻ります。たとえば、ユニットの設定が無効で、意図するとおりに動作しない場合に初期化が必要になることがあります。

1. 先の尖った物を使用して、背面パネル上にある初期設定へのリセットボタンを **CONNECT** LED が赤色で点滅するまで押します。設定がすべてデフォルトに戻ります。
 2. **CONNECT** LED が緑色に点灯したら、すぐに本機が使用可能になります。
- ✓ これで、本機はデフォルトの IP アドレス「192.168.0.1」でのみアクセスできるようになります。必要な場合は設定を変更してください。

8.3 修理

- 本機のハウジングは絶対に開けないでください。本機の部品をお客様自身で交換しないでください。
- 電源装置を絶対に開けないでください。電源装置の部品をお客様自身で交換しないでください。
- 本機のメンテナンスおよび修理は、有資格サービススタッフ（電気技術者またはネットワーク技術者）がすべて行います。よくわからない場合は、販売店の技術サービスセンターにお問い合わせください。

9 使用停止

9.1 譲渡

この VIDEOJET decoder 3000 を譲渡する場合は、必ずこの『設置マニュアル』を添付してください。

9.2 廃棄

Bosch 製品は、リサイクルおよび再利用が可能な高品質の原料およびコンポーネントで設計および製造されています。



この記号は、ご利用の終了時に家庭ごみとは別に廃棄しなければならない、電気および電子機器であることを示しています。

EU では、使用済みの電気および電子機器製品を個別に回収するシステムがあります。この機器は、お住まいの地域の廃棄物収集 / リサイクルセンターで廃棄してください。

10 技術データ

10.1 電氣的仕様

入力電圧	DC 12V
消費電流	0.75A
消費電力	9W

10.2 機械的仕様

寸法 (高さ×幅×奥行き)	38×146×178mm (1.5×5.7×7.0 インチ) ブラケット含まず、BNC コネクター付き
重量	約 0.6kg (1.3lb)
映像	BNC コネクター×1、75Ω、終端 アナログコンポジット 1V _{p-p} 、NTSC または PAL HDMI タイプ A コネクター×1、デジタル
音声	3.5mm ステレオコネクター×2 (モノラル入力×2、モノラルライン出力×1)
信号ライン入力	9kΩ (通常)、5.5V _{p-p} (最大)
信号ライン出力	10kΩ で 3.0V _{p-p} (通常)
イーサネット	10/100 Base-T、自動検知、 半二重 / 全二重、RJ45
COM ポート	RS-232 / RS-422 / RS-485×1、双方向、プッシュイン式端子台
アラーム	プッシュイン式端子入力×4 (絶縁クローズ接点) 最大入力抵抗 10Ω
リレー	プッシュイン式端子出力×1 30V _{p-p} (SELV)、200mA
ディスプレイ	LED×3 (LINK 、 CONNECT 、 DISPLAY)(背面パネル)

10.3 環境条件

VIDEOJET decoder 3000

動作温度	0°C ~ +50°C (+32°F ~ +122°F)
保管温度範囲	0°C ~ +50°C (+32°F ~ +122°F)
相対湿度	0 ~ 90% (大気湿度、結露なきこと)
温度	31BTU/h (最大)
電源装置	
動作温度	0°C ~ +40°C (+32°F ~ +104°F)
保管温度範囲	0°C ~ +40°C (+32°F ~ +104°F)
相対湿度	20 ~ 80% (大気湿度、結露なきこと)

10.4

規格

映像方式	PAL、NTSC、HDMI
映像コーディングプロトコル	H.264 ハイプロファイル、H.264 メインプロファイル、H.264 ベースラインプロファイル (ISO/IEC 14496-10) M-JPEG、JPEG
映像データレート	9.6kbps ~ 10Mbps / チャンネル
画像解像度	
PAL / NTSC	4CIF (704×576/480)
HDMI	最大 1080p (1920×1080)
GOP 構造	I、IP
総遅延時間	300 ミリ秒 (最大)
フレームレート	
PAL / NTSC	1 ~ 25 / 30fps
HDMI	最大 60fps
音声規格	G.711、L16
音声周波数レート	G.711 : 300Hz ~ 3.4kHz L16 : 300Hz ~ 6.4kHz
音声サンプリングレート	G.711 : 8kHz L16 : 16kHz
音声データレート	G.711 : 80kbps L16 : 640kbps
SN 比	50dB 超
ネットワークプロトコル	IPv4, IPv6, UDP, TCP, HTTP, HTTPS, RTP/RTCP, IGMP V2/V3, ICMP, ICMPv6, RTSP, Telnet, ARP, DHCP, SNTP, SNMP (V1, MIB-II), 802.1x, DNS, DNSv6, DDNS (DynDNS.org, selfHOST.de, no-ip.com), SMTP, iSCSI, UPnP (SSDP), DiffServ (QoS), LLDP, SOAP, digest authentication
暗号化	TLS 1.0, SSL, DES, 3DES, AES

索引

記号

アナログ映像, 10
アラーム, 11
アラーム入力, 17
インターフェース, 25
クローズ接点, 17
シリアルインターフェース, 11
シリアル番号, 7
データインターフェース, 18
デジタル映像, 10
デフォルト
 IP アドレス, 21
デフォルト IP アドレス, 21
ドームカメラ, 18
トリガー, 17
ネットワーク, 17
ネットワーク接続, 11, 25
パラメーター, 22
ピン配置, 25
メンテナンス, 6, 27
モニター, 15
ユニット初期化, 27
リセット, 11, 27
リレー, 11, 18
リレー出力, 18
安全性, 5
映像
 アナログ, 10
 デジタル, 10
音声接続, 10, 16
画面解像度, 8

各部の名称 (背面パネル), 11
危険, 5
機能の概要, 8
規定, 7
記号, 7
識別情報, 7
主な機能, 9
修理, 5, 27
信号ソース, 17
設置, 5
設置場所, 12
設置条件, 5, 12
低電圧指令, 7
伝送規格, 18, 25
電源, 5, 11
電磁適合性, 7
動作, 5
表記について, 7

C

CPU 負荷, 25
CPU 負荷表示, 25

D

DHCP, 21

H

HDMI, 15

I

IP アドレス
 デフォルト, 21

Bosch Sicherheitssysteme GmbH

Robert-Bosch-Ring 5

85630 Grasbrunn

Germany

www.boschsecurity.com

© Bosch Sicherheitssysteme GmbH, 2014